

がん相談支援センターをご存知ですか？

王子総合病院 がん相談支援センター
がん専門相談員 渡辺 公明



がん相談支援センターとは

- 全国のがん診療連携拠点病院に設置されている、がんに関する相談窓口です
- がん拠点病院は、全国どこでも質の高いがん医療が受けられるように国が指定した病院です。指定された病院は、治療の内容や設備、がんに関する情報提供などについて、一定の基準を満たしています
- センターは患者さんやご家族のほか、地域の方々はどなたでも無料でご相談できます
- センターでは、がん医療について詳しい看護師や、生活全般の相談ができるソーシャルワーカーが相談員として対応しています

がん相談支援センターの役割

- 患者さんがより良い治療を受けることができるようサポートする
- 主治医との良い関係を保てるようサポートする

→情報提供の前に主治医から病状説明を再度してもらうことが、良い治療に結びつくことにつながる

→主治医の説明が十分理解できなかったことを、一緒に考えることで主治医との関係をより良く転換する

→様々な相談が寄せられるが、すべてを相談員ひとりで解決できることは少ない。他部門（他職種）、他機関に円滑に依頼すること

よくある相談 - ①

<がんの診断について>

- 主治医の説明がわからない、質問したいが忙しそうできっかけがつかめない
- がんがどれくらい進行しているか不安
- 生活上、注意することはあるか。これまで通りの生活ができるか

<治療や病院の選択について>

- 自分のがんの標準治療について知りたい
- 主治医から2つの治療法を提示されたが、決められない
- 主治医に勧められている以外の治療法はないか
- セカンドオピニオンを受けるにはどうすればよいか
- 抗がん剤の副作用について具体的に知りたい
- 手術後、手足がむくんでつらい。どのようなケアがあるか
- 食欲がなく食べられない。食事の工夫について知りたい
- 抗がん剤の副作用で髪が抜けてきた。ウィッグ（かつら）について知りたい
- 緩和ケアとはどんなことをしてもらえるのか

よくある相談 - ②

<療養生活について>

- 医療費を払い続けられるかとても不安
- がんと診断されたことを家族にどう伝えるべきか悩む
- 通院の必要はあるが、働きたい
- 自分の病状、体力にあった仕事を見つけない
- 仕事と治療が両立できるか心配
- 自宅で療養中、急変したらどうしたらよいか

<治療の転換期を迎えたとき>

- 再発を告げられ、混乱して、気持ちが整理できない
- 現在の病院では、これ以上治療ができないと言われた。他の病院で効果のある治療が受けられないか
- 自分の住む地域で、緩和ケア病棟のある病院はあるか
- 緩和ケア病棟のある病院に入院するにはどうしたらよいか
- 自宅退院するが訪問看護、ヘルパー、介護用ベッドなどを利用するにはどうしたらよいか

よくある相談 - ③

<不安なとき・困ったとき>

- 再発の不安が頭から離れない
- 気持ちの整理がつかない。漠然とした不安がある
- 不安な気持ちを誰かに話し、気持ちの整理をしたい
- 同じような立場の患者さんと話をして、参考にしたい

<ご家族からの相談>

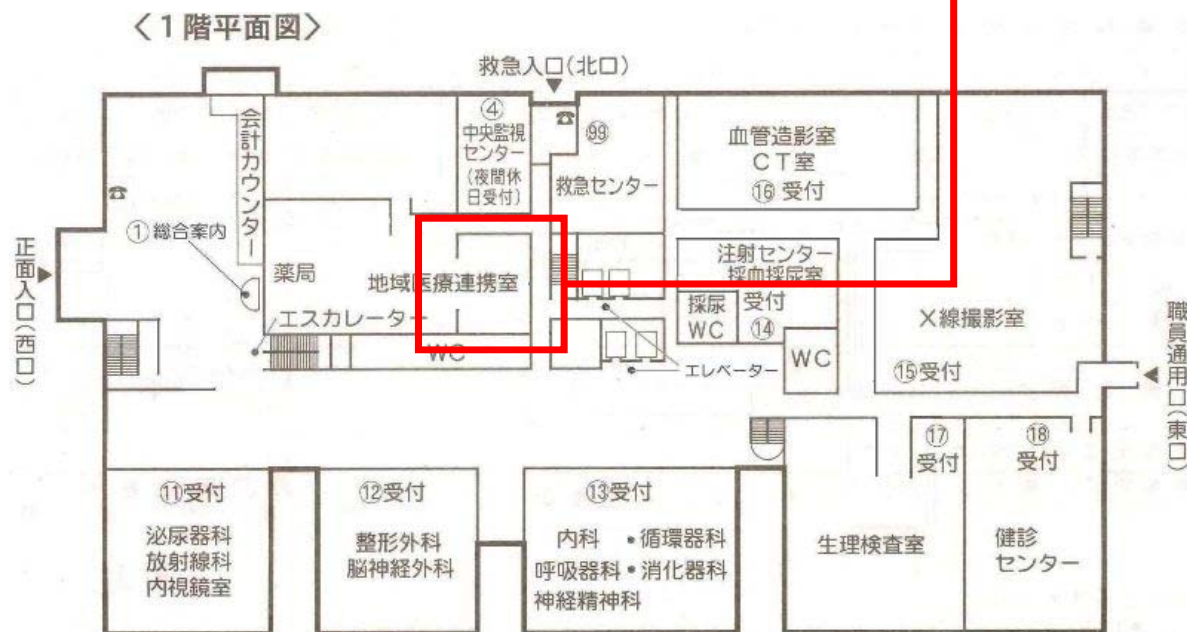
- 本人にがん告知していないが、どのように伝えればよいか
- 本人ひとりで受診し、現在の体や治療の状況がわからず心配
- 退院して自宅で過ごさせたいが、どのような準備が必要になるか
- 自宅で看取るにはどうしたらよいか

王子総合病院 がん相談支援センター（1階）

がんに関する悩みや困りごとは
がん相談支援センターにご相談
ください

電話でもご相談いただけます

電話：（0144）32-8111
（263・390）



就労支援・センカンドオピニオン

北海道がんセンター　がん相談支援センター
がん専門相談員　木川幸一・金澤友紀

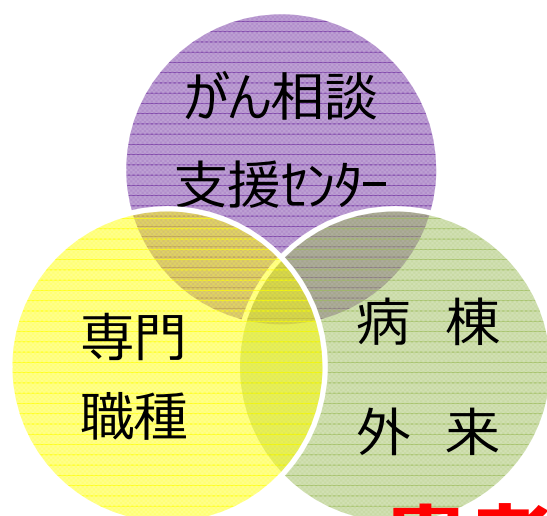
がん相談支援センター

- がん診療連携拠点病院に設置
- がん情報の提供
- 患者さん団体の活動支援
- 患者サロン
- セカンドオピニオン**
- ウィッグレンタル
- 就労相談**
- 緩和ケア施設
- 特殊外来
- 医療費、生活費、生活支援
- 患者団体



就労相談

- 長期治療に伴う休職・復職相談
- 治療期間を職場にどのように伝えたらよいか
- 副作用はいつまで続くか、復職の時期はどうしたらよいか
- 就職活動時の面接でどこまで病状を説明すべきか
- 障害年金が該当するか
- 主治医より復職は無理と言われたが、働きたい
- 職場から超過勤務を強いられるため、体調不良となる



- がん治療 = 働いてはいけないと思っていた
- 副作用 = 予想だけで休業すると考えていた
- 廃業 = 自己破産、生活保護を考えた



職務内容と治療の副作用の関連

患者の生活を支える体制づくり

セカンドオピニオン

□複数の専門家を上手に活用する方法

主治医を変更することではありません

主治医との良好な関係を保ちながら、他の専門家の意見を聞くこと

□治療を行う上で

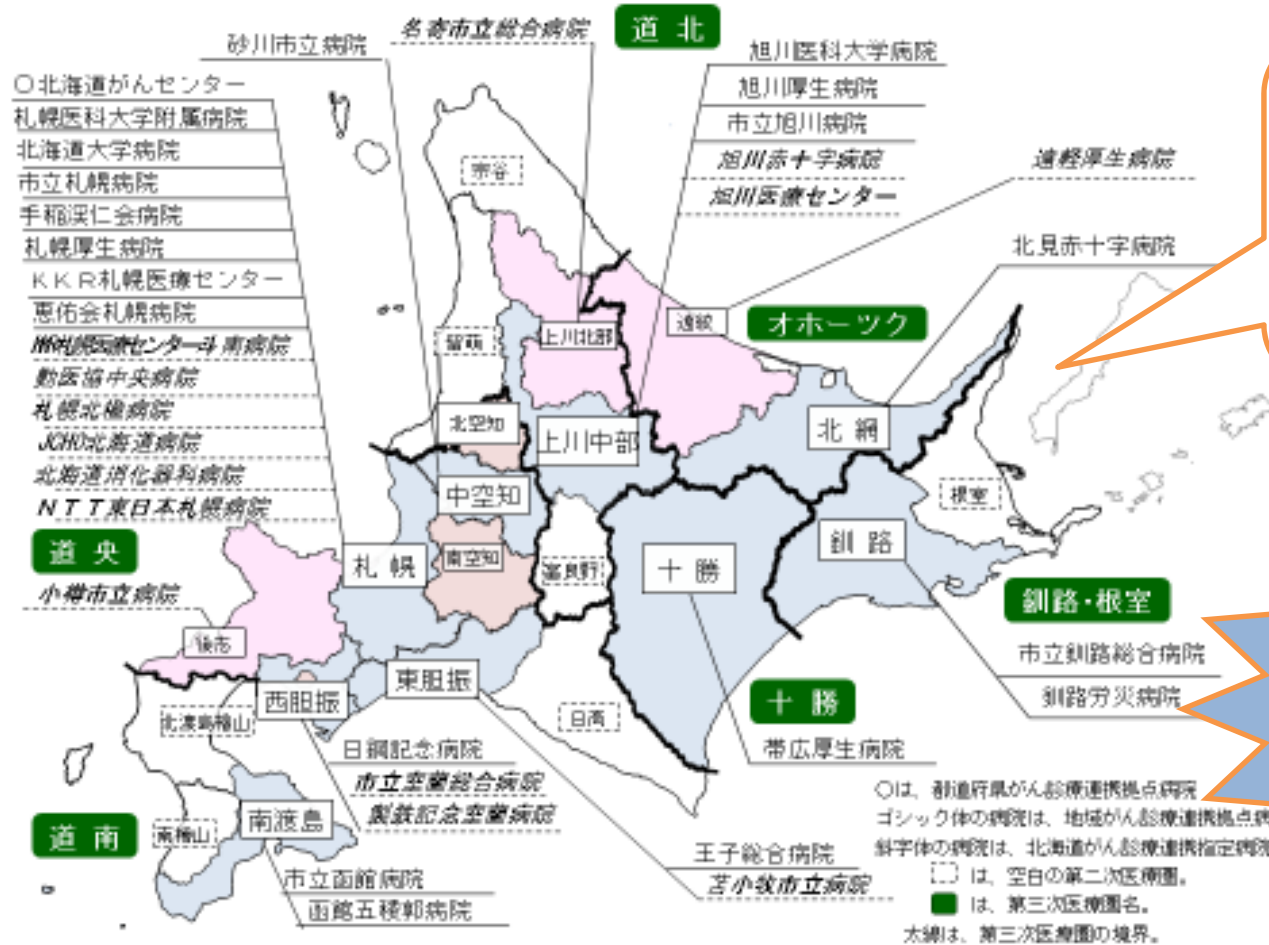
「ほかにどのような選択肢があるのか」（切除手術？放射線治療？）

「その治療方法にはどのようなリスクがあるのか」

を知った上で、

最終的な判断を行うことが非常に重要であり、納得のいく方法です。

全道の拠点病院・指定病院の分布



拠点病院 9圏域
20ヶ所
指定病院 10圏域
21ヶ所

拠点病院も
指定病院もない
二次医療圏
: 7 圏域

患者サロンについて

苫小牧市立病院 がん相談支援センター
がん専門相談員 梅木秀俊

患者サロンとは

『患者サロンとは、患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを気軽に本音で語り合う交流の場』

【運営形態】

- ・ 医療機関によって運営形態はさまざま
- ・ 当院では、2ヶ月に1回の開催
- ・ 1回1時間半程度
- ・ 前半を「ミニ講座」、後半を「交流会」として運営

【主な機能】

- ①患者・家族同士の親睦をはかる
- ②がんに関するさまざまな情報収集
- ③がんに関する医療者との交流、疑問への対応

がんサロンの開催状況

H27年度苫小牧市立病院

日程	テーマ	参加者
5月27日	『在宅でもできるリハビリテーション』 理学療法士 上野 慎一	5名
7月29日	『がん化学療法の主な副作用と受診のタイミング』 がん化学療法看護認定看護師 川崎 幸子	11名
9月30日	『化学療法・放射線治療中のスキンケア』 皮膚・排泄ケア認定看護師 杉本 美佐子	5名
11月25日	交流会のみ	
H28年1月27日	リラックスヨガ(仮)	
H28年3月30日	社会資源について(仮)	

「がんという体験」の意味

- ・参加者の感想から

『いつも自分一人でがんばっている感じで、同じ悩みを持っている人たちと話をできるということがとても励みになり、前向きに考えられるようになります。ありがとうございました。』

『患者様の生の声が聞けて良かった。参考になることも多かった。』

患者サロンの効果

- 悩んでいるのは、自分ひとりではないことに気付き、気持ちが楽になる
- ほかの患者さんの経験談を聞くことで、悩みを解決するヒントを得たり、問題との付き合い方を学んだりできる
- 実際の患者体験に基づいた解決方法を伝え合える
- がんの体験を人に話すことにより、自分の気持ちが整理できる
- 自分の体験がほかの患者さんや家族を支援する力になることを知り、失った自信を取り戻せる

苫小牧市立病院 がん相談支援センター（1階21番）

《一階平面図》



直通電話：0144-84-0158
 直通FAX：0144-33-4678
 メール：
renkei@tomakomai-city-hospital.com